



起動監視機能の設定方法、初めて装置の電源をONにするときのセットアップ、OSを再インストールするときのセットアップ、LANの二重化の設定、ディスクの二重化の設定などについて記載しています。

セットアップを始める前に

セットアップを始める前に必ずお読みください。

本章では2通りのセットアップについて記載しています。

- 初めて電源をONにするときのセットアップ手順
- OSを再インストールするときのセットアップ手順

初めて電源をONにするときのセットアップ手順

購入後、初めてセットアップされる場合の手順です。

Express5800/ftサーバのハードディスクドライブには、お客様がすぐに使えるようにパー ティションの設定、ハードディスクドライブの二重化(システムパーティションのみ)設定か らOS、Express5800/ftサーバが提供するソフトウェアがすべてインストールされていま す。購入後、初めてセットアップされる場合はこちらのセットアップを行います。「初めて 電源をONにするときのセットアップ手順」(4-4ページ)にお進みください。

OSを再インストールするときのセットアップ手順

オペレーティングシステムを再インストールする場合の手順です。

Express5800/ftサーバではEXPRESSBUILDERを使ってOSの再インストールを行いま す。添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMから起動したときに表示されるメニューの「セッ トアップ」の項目を選択することで実行されるExpress5800/ftサーバシリーズ独自のセット アッププログラムを「ftサーバセットアップ」と呼びます。

「ftサーバセットアップ」では、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS (Windows)、各種ユーティリティのインストールまでを自動でセットアップすることができます。

ハードディスクドライブを購入時の状態と異なるパーティション設定で使用する場合やOS を再インストールする場合は、こちらのセットアップを行います。「OSを再インストールす るときのセットアップ手順」(4-10ページ)にお進みください。

セットアップの流れ

本装置のセットアップの流れを図に示します。



初めて電源をONにするときのセットアップ手順

購入後、初めてセットアップされる場合は以下の手順を行ってください。

なお、Express5800/ftサーバPP・サポートサービスをご購入のお客様は、Express5800/ftサーバPP・ サポートサービスのWebページにおいて、最新のft制御ソフトウェアを確認し、本体に添付されている 「EXPRESSBUILDERJCD-ROMおよびft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMのバージョンが古い場合に は、以下の手順によるセットアップ後、Webページに掲載されているアップデート手順に従ってシステム のアップデートを実施してください。



本体に添付されている「EXPRESSBUILDER」CD-ROMおよびft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMのバージョンを確認するには「ft制御ソフトウェアのバージョン確認方法」(5-15 ページ)を参照してください。

- 1. Step A-1~Step A-2を行う。
- **2.** Step C-1~Step C-12を行う。



上記で示す方法以外のセットアップでは、Express5800/ftサーバを正しくセットアップ することができません。

Step A-1 初めて電源をONにするときのセットアップ手順の開始

購入後、初めて電源をONにする場合のセットアップ手順の開始です。 セットアップを開始する前に以下のものを準備してください。

- □ ユーザーズガイド(セットアップ編)(本書)
- □ ユーザーズガイド
- □ [EXPRESSBUILDER]CD-ROM
- □ 本装置添付のWindows Server 2003 Service Pack CD-ROM Service Packの適用は任意です。
 Service Packを適用される場合はご使用ください。

「Step A-2 起動監視機能の設定を無効にする」(次ページ)に進みセットアップを行ってください。

Step A-2 起動監視機能の設定を無効にする

電源ONの確認とこの後のセットアップを正しく行うための設定をします。 本装置は、起動時に本体の監視をする機能を持っています(本機能は出荷時の設定で有効と なっています)。

本装置の購入時にインストール済みのオペレーティングシステムをセットアップするときは 監視機能の設定を無効にしてください。監視機能の設定を無効にしない場合はインストール 済みのオペレーティングシステムのセットアップを失敗します。

ここに記載されている手順を参照して正しく設定してください。



ここで説明する設定を行わない場合、Windowsのセットアップの画面の表示中に強制的に 再起動され、セットアップが正しく行われません。強制再起動後にセットアップを不正に繰 り返す場合があります。セットアップに失敗すると、購入時にインストール済みのオペレー ティングシステムは使用できなくなります。 再インストールを行わなければ使用できません。



起動監視機能の切り替えなどを行うBIOSセットアップユーティリティの操作やパラメータの詳細については、別冊のユーザーズガイドを参照してください。

1. ディスプレイ装置およびExpress5800/ftサーバに接続している周辺機器の電源をONにする。



無停電電源装置(UPS)などの電源制御装置に電源コードを接続している場合は、電源制御装置の電源がONになっていることを確認してください。

Express5800/ftサーバのAC電源をONにすると、通電後、PCIモジュール間にてBMCの同期を行います。BMCの同期が完了すると、PCIモジュールのどちらか一方のPOWERランプが点灯します。

2. フロントベゼルを取り外す。

3. 両系のPCIモジュールのBMCステータスランプ(◆B)が「緑点灯」していることを確認し、 Express5800/ftサーバ前面にある点灯している方のPOWERスイッチを押す。



∎ਾ0 ≣ੁੁ

- 「NEC」ロゴが表示されるまでは電源をOFFにしないでください。
- ・電源投入時は、両系のPCIモジュールのBMCステータスランプ(◆^B)が「緑点灯」している ことを確認後、POWERスイッチを押してください。

しばらくするとディスプレイ装置の画面には「NEC」ロゴが表示されます。

「NEC」ロゴを表示している間、Express5800/ftサーバは自己診断プログラム(POST)を実行して Express5800/ftサーバ自身を診断しています。詳しくは別冊のユーザーズガイドをご覧くださ い。POSTを完了するとWindows Server 2003が起動します。 ディスプレイ装置の画面に「Press <F2> to enter SETUP」と表示されたら、<F2>キーを押す。
 BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」が起動し、画面にはMainメニューが表示されます。

		Phoenix BIC	S Setup Utility		
Main	Advanced	Stratus	Security	Boot	Exit
0 ·			2041	Item Specific	: Help
System Time System Date		[II 5:23 [01/30	3:34])/2004]	<tab>, <shift-tab< td=""><td>1>,</td></shift-tab<></tab>	1>,
Primary Mast Primary Slav	ter e	CD-R ATRF	OM PI Removable	or <enter> selects field.</enter>	;
Keyboard Fe	atures				
System Mem	iory :	576 K	B		
Extended Me	emory :	2047	MB		
Boot-time Dia Summary sci	agnostic Screen : reen :	[Disat [Enab	bled] lled]		
1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Chang	e Values	F9 Setup Defaults	

5. カーソルキー(<→>キーか<←>キー)を押して、「Stratus」を選択する。

Stratusメニューが表示されます。

	Phoenix B	IOS Setup Utility		
Main Advanced	Stratus	Security	Boot	Exit
 ftMemory Monitoring Configuration PCI OPROM hot key setup 			Item Specific ftMemory configuration	Help
F1 Help ↑↓ Select Item Esc Exit ←→ Select Menu	-/+ Cha Enter Selec	nge Values t ► Sub-Menu	F9 Setup Defaults F10 Previous Values	

6. カーソルキー(<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Monitoring Configuration」を選択し、<Enter> キーを押す。

	Phoenix BIOS S	Setup Utility	
	Stratus		
Monitori	ng Configuration	Item Specific Help	
Option ROM Scan Monitorin Option ROM Monitoring Tim Boot Monitoring Time-out P POST Pause Monitoring: POST Pause Monitoring Tin	ig: [Enabled] e-out: [5] [Enabled] ariod: [8] [Enabled] ne-out: [3]	Disables/enables the Option ROM Scan Monitoring features	
F1 Help $\uparrow \downarrow$ Select Ite Esc Exit $\leftarrow \rightarrow$ Select M	em -/+ Change V enu Enter Select	Values F9 Setup Defaults ► Sub-Menu F10 Previous Values	

Monitoring Configurationサブメニューが表示されます。

7. カーソルキー(<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Boot Monitoring」を選択し、<Enter>キーを押す。

パラメータが表示されます。

8. パラメータから「Disabled」を選択して<Enter>キーを押す。

Boot Monitoringの現在の設定表示が「Disabled」になります。

		Phoenix BIOS Setup Utility	
	Stratu	JS	
l	Monitoring Configu	uration	Item Specific Help
	Option ROM Scan Monitoring: Option ROM Monitoring Time-out: Boot Monitoring: Boot Monitoring Time-out Period: POST Pause Monitoring: POST Pause Monitoring Time-out:	[Enabled] [5] [Enabled] [8] [Enabled Enabled Enabled	Disables/enables the Option ROM Scan Monitoring features
	F1 Help $\uparrow \downarrow$ Select ItemEsc Exit $\leftarrow \rightarrow$ Select Menu	-/+ Change Values Enter Select ► Sub-Menu F	F9 Setup Defaults F10 Previous Values

9. カーソルキー(<→>キーか<←>キー)を押して、「Exit」を選択する。

Exitメニューが表示されます。

		Phoenix BIC	S Setup Utility		
Main	Advanced	Stratus	Security	Boot	Exit
Save Chan Exit Withou Get Default Load Previc Save Chan	ges & Exit t Saving Changes Value pus Value ges		Security	Exit System Setup save your changes CMOS.	Help and to
F1 Help Esc Exit	$ \ \downarrow Select Item \\ \ \leftarrow \rightarrow Select Menu $	-/+ Chang Enter Select	e Values ▶ Sub-Menu	F9 Setup Defaults F10 Previous Values	

 カーソルキー(<↑>キーか<↓>キー)を押 して、「Save Changes & Exit」を選択 し、<Enter>キーを押す。

確認画面が表示されます。

11.「Yes」を選択して<Enter>キーを押す。

設定内容を保存してSETUPを終了後、再起動します。

以上で切り替えは完了です。



再起動後にWindowsのセットアップウィザード画面が表示されます。「Step C-1 Windows セットアップウィザード」に進んでセットアップを続けます。 次の手順はStep C-1 (4-35ページ)以降になります。

Step C-1「Windowsセットアップウィザード」(4-35ページ)へお進みください。

Setup Confir	rmation!	
Save configuration changes and exit now?		
[Yes]	[No]	

OSを再インストールするときのセットアップ手順

オペレーティングシステムを再インストールする場合は以下の手順を行ってください。



Express5800/ftサーバPP・サポートサービスご購入のお客様は、再インストールを行う前に Express5800/ftサーバPP・サポートサービスのWebページにおいて最新のft制御ソフトウェアを確認 し、最新パージョンのソフトウェアをインストールしてください。

- 1. Step B-1~Step B-4を行う。
- 2. Step C-1~Step C-12を行う。

Step B-1 OSを再インストールするときのセットアップ手順の開始

オペレーティングシステム再インストールの開始です。



Express5800/ftサーバにお客様の判断でサービスパックを使用しないでください。サー ビスパックを適用したい場合は、Express5800/ftサーバPP・サポートサービスをご契 約の上、Express5800/ftサーバPP・サポートサービスのWebページで適用状況を確認 し、Express5800/ftサーバにサービスパックを適用してください。



Express5800/ftサーバPP・サポートサービスをご購入のお客様は、最新のサービスパック への対応状況をExpress5800/ftサーバPP・サポートサービスのWebページから確認するこ とができます。

Windows Server 2003のインストールには、以下のものが必要です。

- □ 「EXPRESSBUILDER」CD-ROM
- □ ft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROM 本CD-ROMは、ft制御ソフトウェアを最新にアップデートするものであり、装置に添付 されていない場合もあります(装置出荷時点で[EXPRESSBUILDER]CD-ROMに含まれ るソフトウェアが最新の場合には添付されません)。
- □ Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition 日本語版 CD-ROM
- □ 本装置添付のWindows Server 2003 Service Pack CD-ROM Service Packの適用は任意です。
 Service Packを適用される場合はご使用ください。
- □ ユーザーズガイド(セットアップ編)(本書)
- □ ユーザーズガイド
- □ RDR Key FD RDR Key FDはRDR(Rapid Disk Resync)機能対応モデルにのみ添付されます。

● Express5800/ftサーバPP・サポートサービスをご購入のお客様は、最新のft制御ソ 重要 フトウェアのリリース状況を確認し、最新バージョンのft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMを利用してください。 ● EXPRESSBUILDERと「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」を利用してOSを 再インストールした場合には、ft制御ソフトウェア以外の以下の物件は、利用した EXPRESSBUILDERの物件がインストールされます。 また、システムBIOSおよびBMCファームウェア、SMMファームウェアは、アップ デートされません。 · ESMPRO/ServerAgent ・エクスプレス通報サービス 上記モジュールおよびシステムBIOS、BMCファームウェア、SMMファームウェアの アップデートモジュールが存在する場合には、個別に適用する必要があります。 (重要) 個別に適用するアップデートモジュールには、モジュールの適用を実施する環 境が限定されているものがあります。各モジュールの手順書を確認の上、正し く適用してください。 適用環境として、ft制御ソフトウェアの旧バージョンが必要となる場合もあり ます。この場合には、旧バージョンでのインストール後、最新のft制御ソフト ウェアへアップデートする必要があります。 この場合には、最新のft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを利用したOS の再インストールは実施できません。

セットアップ手順を進める前に、OSをインストールするパーティションのサイズを決定してください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求め ることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ インストールに必要なサイズ = 2900MB ページングファイルサイズ(推奨) = 搭載メモリサイズ × 1.5 ダンプファイルサイズ = 搭載メモリサイズ + 12MB

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
 - 1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBで す。搭載メモリサイズ×1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設 定してください。
 - 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は、 「2048MB+12MB」です。
 - Windows Server 2003 Service Pack1のCDからWindows Server 2003 Service Pack1をインストールする場合は、インストール時の最大使用領域 [1340MB]のハードディスクドライブ空き領域が必要です。
 Windows Server 2003 Service Pack1適用予定の場合に「ダンプファイルサイズ」 が「1340MB」より小さい場合には「ダンプファイルサイズ」の代わりに「1340MB」を 加算する必要があります。(Windows Server 2003 Service Pack1のインストー ルに必要なハードディスクドライブ領域については、Windows Server 2003 Service Pack1のWebサイトを参照してください)



搭載メモリサイズは、CPUモジュール1つに実装されている合計サイズです。

例えば、搭載サイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、上記の計算 方法から

• Windows Server 2003 Service Packを適用しない場合

 $2900MB + (512MB \times 1.5) + (512MB + 12MB) = 4192MB$

● Windows Server 2003 Service Pack1を適用する場合

2900MB + (512MB × 1.5) + <u>1340MB</u> = 5008MB SP1 CDからSP1をインストールする場合の最大使用領域

となります。



ftサーバセットアップで指定可能な最小パーティションサイズは3072MBです。 自動インストールの動作のため、3072MB以上のパーティションサイズが必要なため、 3071MB以下を指定することはできません。

Step B-2 OSを再インストールするときのセットアップ手順の前準備

ftサーバセットアップ開始前に、以下の2つの前準備を行ってください。前準備を行わない 場合、セットアップが正しく行われません。

- ハードディスクドライブの初期化
- Disk増設ユニットへのセットアップ準備
- Express5800/ftサーバ本体の準備

ハードディスクドライブの初期化

使用済みハードディスクドライブを利用してftサーバセットアップを行う場合、以下のハードディスクドライブを初期化してください。

- PCIモジュール(グループ1用)のスロット1に搭載するハードディスクドライブ
- PCIモジュール(グループ2用)のスロット1に搭載するハードディスクドライブ

Disk増設ユニットへセットアップする場合は、以下のハードディスクドライブを初期化して ください。

- Disk増設ユニットのスロット1に搭載するハードディスクドライブ
- Disk増設ユニットのスロット8に搭載するハードディスクドライブ

ハードディスクドライブ初期化手順

<RDR機能でミラーリングを行っていたハードディスクドライブの初期化方法>

ハードディスクドライブの物理フォーマットを行います。 別冊のユーザーズガイドの「システムのコンフィグレーション」―「SCSI BIOS〜Fast!UTIL」 を参照し、SCSI Disk Utilityで「Low-Level Format」を行ってください。

Low -Level Formatを行う際は、BIOSセットアップユーティリティの「Stratus」-「Monitoring Configuration」-「<u>Option ROM Scan Monitoring</u>」を「Disabled」にしてください。設定方法については別冊のユーザーズガイドの4章「システムBIOS」を参照してください。 物理フォーマット完了後、「Option ROM Scan Monitoring」は「Enabled」に戻してください。

- 「Stratus」-「Monitoring Configuration」-「Option ROM Scan Monitoring」を 「Disabled」にせずにLow-Level Formatを行った場合は、物理フォーマットは正しく 完了しません(途中で再起動または電源OFFされます)。「Format operation complete」が画面に表示されることで物理フォーマットが正しく完了したことを確認 してください。
 - 物理フォーマットに要する時間は18GBのハードディスクドライブの場合約10分です。

<ディスクの管理でミラーリングを行っていたハードディスクドライブの初期化方法>

fdiskコマンドでフォーマットを行います。

1. ROM-DOS起動ディスクを作成する。

ROM-DOS起動ディスクの作成については別冊のユーザーズガイドの「ユーティリティのインストールと操作」-「EXPRESSBUILDER」-「EXPRESSBUILDERトップメニュー」-「ツールメニュー」の「サポートディスクの作成」を参照して作成してください。

2. 初期化を行うハードディスクドライブのみをスロットにセットする。

■● 重要 ハードディスクドライブの初期化を行う際は、ハードディスクドライブはPCIモジュール(グ ループ1用)のスロット1にセットしてください。

- 3. ROM-DOS起動ディスクをフロッピーディスクドライブに差し込んでシステムを起動する。
- 4. ROM-DOSが起動され、しばらくして「A:¥」とプロンプトが表示されたら、FDISKコマンドを実行する。
- 5. 「Do you wish to enable large disk support?[Y]:」と表示されたら、<Y>キーを押す。
- 6. <A>キーを押し、パーティションをすべて削除する。(A:Delete all partitions)
- 7. 「Warning!All data on fixed disk 1 will be lost!Are you sure you want to delete?[N]:」と表示されたら、<Y>キーを押す。
- 8.「Press Esc to return to menu:」と表示されたら、<ESC>キーを押す。
- 9. <S>キーを押して、変更を保存する。(S:Save changes (and reboot))
- **10.** 「Changes saved. Press any key to reboot....」と表示されたら、何かキーを押す。
- 11. 再起動が開始されたら、フロッピーディスクドライブからROM-DOS起動ディスクを抜き出し、 電源をOFFにする。

これで、ハードディスクドライブの初期化は完了です。続けて「Express5800/ftサーバ本体の準備」を行ってください。

Disk増設ユニットへのセットアップ準備

オプション製品のDisk増設ユニットがある場合には、Disk増設ユニットに実装されたハード ディスクドライブにOSをインストールすることができます。Disk増設ユニットに実装され たハードディスクドライブへOSをインストールする場合には、以下の準備作業を実施して ください。

■ Disk増設ユニットに実装されたハードディスクドライブへOSをインストールしない場合に は、Disk増設ユニットおよびSCSIコントローラを取り外した後、OSのインストールを実施してください。Disk増設ユニットおよびSCSIコントローラは、OSインストールが完了 後に実装してください。

1. Disk増設ユニット向けPCIボード(SCSIコントローラ)を実装する。

SCSIコントローラは、PCIモジュール(グループ1用/グループ2用)に実装します。

★・○ 「 「 」 」 」 こ 二 要 こ 、 の Sの セットアップはできま せん。 の Sの セットアップはできま

2. Disk増設ユニットをSCSIコントローラに接続する。

接続方法の詳細については、Disk増設ユニットに添付されている説明書を参照してください。

3. Disk増設ユニットにハードディスクドライブをセットする。

Disk増設ユニットのスロット1にハードディスクドライブを1台のみセットします。

➡● 重要 ハードディスクドライブが複数台セットされている場合には、インストール先とするディスク を特定できません。

Disk増設ユニットへのインストール作業中の注意事項

インストール時に以下のメッセージが表示されますが、Disk増設ユニットへセットアップしている場合には、Disk増設ユニット向けPCIボード(SCSIコントローラ)は、実装された状態で問題ありません。

```
    *** 重要:確認1 ***
    オプションのPCIボードは取り外していますか?
取り外していない場合はftサーバセットアップを中断し、
オプションのPCIボードをすべて取り外してから
再度インストールをやり直してください。
    (注)オプションのPCIボードが実装されている場合、
セットアップが正常に完了しません。
```

インストールを中断しますか[Y,N]?

インストール時に以下のメッセージが表示されますが、Disk増設ユニットへセットアップしている場合には、ハードディスクドライブをDisk増設ユニットのスロット1に1台のみ搭載した状態でインストール処理を実施してください。

*** 重要:確認2 *** -ハードディスクはPCIモジュール (グループ1) スロットに1台のみ セットしていますか? ハードディスクが2台以上セットされている場合はftサーバセットアップを 中断し、PCIモジュール (グループ1) スロット1以外のハードディスクを すべて取り外してから再度インストールをやり直してください。 (注)ハードディスクが複数台セットされている場合には、インストール先 とするディスクを特定できません。

Express5800/ftサーバ本体の準備

Express5800/ftサーバの電源がOFFの状態で、以下の前準備を行ってください。

1. Express5800/ftサーバの準備を行う。

次に示す条件に応じて準備を行ってください。

<本体装置実装ハードディスクドライブにOSをインストールする場合(標準構成)>

- PCIモジュール(グループ1用)を実装し、PCIモジュール(グループ2用)を取り外す。
- CPUモジュール(グループ1用/グループ2用)、拡張PCIモジュール(グループ1用/グループ2用) をすべて実装する。
- LANケーブルをすべて取り外す。
- オプションのPCIボードをすべて取り外す。
- ハードディスクドライブはPCIモジュール(グループ1用)のスロット1に1台のみ搭載する。
- テープ装置などの外部SCSI機器を内蔵のSCSIコネクタから取り外す。

<Disk増設ユニット実装ハードディスクドライブにOSをインストールする場合>

- PCIモジュール(グループ2用)に接続されているDisk増設ユニット用PCIボード(SCSIコント ローラ)とのSCSIケーブルを取り外す。
- PCIモジュール(グループ1用)を実装し、PCIモジュール(グループ2用)を取り外す。
- 拡張PCIモジュール(グループ1用/グループ2用)をすべて実装する。
- CPUモジュール(グループ1用/グループ2用)をすべて実装する。
- LANケーブルをすべて取り外す。
- Disk増設ユニット用PCIボード(SCSIコントローラ)以外のオプションのPCIボードをすべて取 り外す。
- ハードディスクドライブはDisk増設ユニットのスロット1に1台のみ搭載する。
- テープ装置などの外部SCSI機器を内蔵のSCSIコネクタから取り外す。

₩OIEE

指定のスロット以外には、すべてのモジュールのすべてのスロットに1台もハードディスクド ライブを搭載しないでください。ハードディスクドライブが複数台セットされている場合には、 インストール先とするハードディスクドライブを特定できません。 2. PCIモジュール(グループ1用)をプライマリにする。

作業や確認に必要な部品の位置は次のとおりです。



<AC電源がOFFの場合>(電源コードがコンセントに接続されていない場合)

以下の順番でExpress5800/ftサーバに電源コードを接続してください。

- (1) ACインレットA(グループ1用)に電源コードを接続する。
- (2) ACインレットB(グループ2用)に電源コードを接続する。
- (3) PCIモジュール(グループ1用)のPOWERスイッチが点灯することを確認する。
- (4) PCIモジュール(グループ1用/グループ2用)の2つのBMCステータスランプが「緑点灯」していることを確認する。

ਰਾ

BMCステータスランプが「緑点灯」以外の場合は、次の手順を開始しないでください。セット アップが正しく行われなくなります。

<AC電源がONの場合>(電源コードがコンセントに接続されており、本体装置のPOWERがOFFの場合)

(1) PCIモジュールのPOWERスイッチのランプを確認する。

- PCIモジュール(グループ1用)のPOWERスイッチが点灯している場合
 PCIモジュール(グループ1用)がプライマリになっています。前準備は完了です。続いて「Step B-3 起動監視機能の設定を無効にする」を行ってください。
- PCIモジュール(グループ2用)のPOWERスイッチが点灯している場合
 PCIモジュール(グループ1用)がセカンダリになっています。(2)以降の操作を行い、PCI
 モジュール(グループ1用)をプライマリにしてください。
- (2) PCIモジュール(グループ1用/グループ2用)の2つのBMCステータスランプが「緑点灯」していることを確認する。

₩0重要

BMCステータスランプが「緑点灯」以外の場合は、(3)以降の操作は行わないでください。 BMCファームウェアが破壊されるおそれがあります。

- (3) ACインレットB(グループ2用)の電源コードを抜く。
- (4) PCIモジュール(グループ1用)のPOWERスイッチが点灯することを確認する。
- (5) ACインレットB(グループ2用)の電源コードを接続する。
- (6) PCIモジュール(グループ1用/グループ2用)の2つのBMCステータスランプが「緑点灯」してい ることを確認する。

₩O 重要

BMCステータスランプが「緑点灯」以外の場合は、次の手順を開始しないでください。セットアップが正しく行われないおそれがあります。

以上で前準備は完了です。

Step B-3 起動監視機能の設定を無効にする

電源ONの確認とこの後のセットアップを正しく行うための設定をします。 本装置は、起動時に本体の監視をする機能を持っています。 再インストールする際、監視機能の設定を無効にしてください。 監視機能の設定を無効にしない場合、再インストールが正しくできません。ここに記載され ている手順を参照して正しく設定してください。

■ ここで説明する設定を行わない場合、Windowsのセットアップの画面の表示中に強制的に 再起動され、セットアップが正しく行われません。強制再起動後にセットアップを不正に繰 り返す場合があります。セットアップに失敗すると、初めから再インストールを行わなけれ ば使用できません。



起動監視機能の切り替えなどを行うBIOSセットアップユーティリティの操作やパラメータの詳細については、別冊のユーザーズガイドを参照してください。

1. ディスプレイ装置およびExpress5800/ftサーバに接続している周辺機器の電源をONにする。

チェック

無停電電源装置(UPS)などの電源制御装置に電源コードを接続している場合は、電源制御装置の電源がONになっていることを確認してください。

Express5800/ftサーバのAC電源をONにすると、通電後、PCIモジュール間にてBMCの同期を行います。BMCの同期が完了すると、PCIモジュールのどちらか一方のPOWERランプが点灯します。

2. フロントベゼルを取り外す。

3. 両系のPCIモジュールのBMCステータスランプ(◆B)が「緑点灯」していることを確認し、 Express5800/ftサーバ前面にある点灯している方のPOWERスイッチを押す。



ਰਾ

- 「NEC」ロゴが表示されるまでは電源をOFFにしないでください。
- 電源投入時は、両系のPCIモジュールのBMCステータスランプ(◆^B)の消灯を確認後、 POWERスイッチを押してください。

しばらくするとディスプレイ装置の画面には「NEC」ロゴが表示されます。

「NEC」ロゴを表示している間、Express5800/ftサーバは自己診断プログラム(POST)を実行して Express5800/ftサーバ自身を診断しています。詳しくは別冊のユーザーズガイドをご覧ください。 ディスプレイ装置の画面に「Press <F2> to enter SETUP」と表示されたら、<F2>キーを押す。
 BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」が起動し、画面にはMainメニューが表示されます。

	Phoenix BIO	S Setup Utility		
Main Advanced	Stratus	Security	Boot	Exit
0. store T 'ree			Item Specific	Help
System Date :	[01/30	::34] /2004]	<tab>, <shift-tab< td=""><td>>,</td></shift-tab<></tab>	>,
Primary Master Primary Slave	CD-R ATRP	OM I Removable	or <enter> selects field.</enter>	
Keyboard Features				
System Memory :	576 K	в		
Extended Memory :	2047	MB		
Boot-time Diagnostic Screen : Summary screen :	[Disab [Enab	led] led]		
1 Help ↑↓ Select Item	-/+ Chang	e Values	F9 Setup Defaults	

5. カーソルキー(<→>キーか<←>キー)を押して、「Stratus」を選択する。

Stratusメニューが表示されます。

	Phoenix Blo	DS Setup Utility		
Main Advanced	Stratus	Security	Boot	Exit
titlemory Monitoring Configuration PCI OPROM hot key setup	Sitatus	Security	Item Specific ftMemory configuration	Help
F1 Help $\uparrow \downarrow$ Select Item Esc Exit $\leftrightarrow \rightarrow$ Select Menu	-/+ Chang Enter Select	ge Values ▶ Sub-Menu I	F9 Setup Defaults F10 Previous Values	

6. カーソルキー(<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Monitoring Configuration」を選択し、<Enter> キーを押す。

	Phoenix BIOS S	Setup Utility	
	Stratus		
Monitori	ng Configuration	Item Specific Help	
Option ROM Scan Monitorin Option ROM Monitoring Tim Boot Monitoring Time-out P POST Pause Monitoring: POST Pause Monitoring Tin	ig: [Enabled] e-out: [5] [Enabled] ariod: [8] [Enabled] ne-out: [3]	Disables/enables the Option ROM Scan Monitoring features	
F1 Help $\uparrow \downarrow$ Select Ite Esc Exit $\leftarrow \rightarrow$ Select M	em -/+ Change V enu Enter Select	Values F9 Setup Defaults ► Sub-Menu F10 Previous Values	

Monitoring Configurationサブメニューが表示されます。

7. カーソルキー(<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Boot Monitoring」を選択し、<Enter>キーを押す。

パラメータが表示されます。

8. パラメータから「Disabled」を選択して<Enter>キーを押す。

Boot Monitoringの現在の設定表示が「Disabled」になります。

		Phoenix BIOS Setup Utility	
	Stratus	3	
l	Monitoring Configur	ation	Item Specific Help
	Option ROM Scan Monitoring: Option ROM Monitoring Time-out: Boot Monitoring: Boot Monitoring Time-out Period: POST Pause Monitoring: POST Pause Monitoring Time-out:	[Enabled] [5] [Enabled] [8] [Fnabled Disabled Enabled	Disables/enables the Option ROM Scan Monitoring features
	F1 Help $\uparrow \downarrow$ Select ItemEsc Exit $\leftarrow \rightarrow$ Select Menu	-/+ Change Values F Enter Select ► Sub-Menu	F9 Setup Defaults 10 Previous Values

9. カーソルキー(<→>キーか<←>キー)を押して、「Exit」を選択する。

Exitメニューが表示されます。

		Phoenix BIC	OS Setup Utility		
Main	Advanced	Stratus	Security	Boot	Exit
Save Chan Exit Withou Get Default Load Previc Save Chan	ges & Exit t Saving Changes Value ous Value ges			Item Specific Exit System Setu save your change CMOS.	: Help
F1 Help Esc Exit	$ \begin{array}{l} \uparrow \downarrow \text{Select Item} \\ \leftarrow \rightarrow \text{Select Menu} \end{array} $	-/+ Chang Enter Select	ge Values ▶ Sub-Menu	F9 Setup Defaults F10 Previous Values	

 カーソルキー(<↑>キーか<↓>キー)を押 して、「Save Changes & Exit」を選択 し、<Enter>キーを押す。

確認画面が表示されます。

- Setup Confirmation! Save configuration changes and exit now? [Yes] [No]
- 11. 「Yes」を選択して<Enter>キーを押す。

設定内容を保存してSETUPを終了後、再起動します。

以上で切り替えは完了です。



オペレーティングシステムの再インストールをする場合は、再インストールの準備のために いったん本装置の電源をOFFにしてください。その後、次ページの「Step B-4 ftサーバセッ トアップ」に進んでセットアップを続けます。

Step B-4 ftサーバセットアップ

ftサーバセットアップを開始する前に以下の前準備を行いましたか?

<本体装置実装ハードディスクドライブにOSをインストールする場合(標準構成)>

	チェック
ハ-	ードディスクドライブの初期化
	ハードディスクドライブの初期化は行いましたか?
Ex	press5800/ftサーバ本体の準備
	オプションのPCIボードはすべて取り外しましたか?
	PCIモジュール(グループ1用)は実装し、PCIモジュール(グループ2用)は取り外しましたか?
	拡張PCIモジュール(グループ1用/グループ2用)はすべて実装しましたか?
	CPUモジュール(グループ1用/グループ2用)はすべて実装しましたか?
	ハードディスクドライブの搭載はPCIモジュール(グループ1用)のスロット1に1台のみとしましたか?
	LANケーブルはすべて取り外しましたか?
	テープ装置などの外部SCSI機器は内蔵のSCSIコネクタから取り外しましたか?
起	動監視機能の設定
	起動監視機能の設定を無効にしましたか?

<Disk増設ユニット実装ハードディスクドライブにOSをインストールする場合>

チェック			
ハードディスクドライブの初期化			
□ ハードディスクドライブの初期化は行いましたか?			
Express5800/ftサーバ本体の準備			
□ Disk増設ユニット用PCIボード(SCSIコントローラ)以外のオプションのPCIボードはすべて取り 外しましたか?			
□ PCIモジュール(グループ2用)に接続されているDisk増設ユニット用PCIボード(SCSIコントロ ーラ)とのSCSIケーブルは取り外しましたか?			
□ PCIモジュール(グループ1用)は実装し、PCIモジュール(グループ2用)は取り外しましたか?			
□ 拡張PCIモジュール(グループ1用/グループ2用)はすべて実装しましたか?			
□ CPUモジュール(グループ1用/グループ2用)はすべて実装しましたか?			
□ ハードディスクドライブの搭載はDisk増設ユニットのスロット1に1台のみとしましたか?			
LANケーブルはすべて取り外しましたか?			
□ テープ装置などの外部SCSI機器は内蔵のSCSIコネクタから取り外しましたか?			
起動監視機能の設定			
□ 起動監視機能の設定を無効にしましたか?			

・前準備を行った場合は、下記手順に従ってftサーバセットアップを行ってください。

- ・前準備を行っていない場合は、以下を参照し前準備を行ってください。
 - Step B-2 OSを再インストールするときのセットアップ手順の前準備
 - Step B-3 起動監視機能の設定を無効にする

以下の手順に従って、ftサーバセットアップを行ってください。

- 「Step B-3 起動監視機能の設定を無効にする」(4-19ページ)の設定を行わない場合、 Windowsのセットアップ画面表示中に強制的に再起動され、セットアップが正しく行 われません。強制再起動後にWindowsのセットアップを不正に繰り返す場合がありま す。Windowsのセットアップ画面表示中に強制的に再起動された場合には、セット アップ手順を初めからやり直す必要があります。
 - PCIモジュール(グループ2用)を取り外してからftサーバセットアップを開始してください。PCIモジュール(グループ2用)を実装したままftサーバセットアップを行うと、 項番22において処理が止まったようになり、通常よりもWindows Server 2003の インストールに時間を要する場合があります。
- 1. Express5800/ftサーバの電源をONにする。
- 2. Express5800/ftサーバのCD-ROMドライブにEXPRESSBUILDERと印刷されたCD-ROMを セットする。

₩0

ftサーバセットアップではCD-ROMはPCIモジュール(グループ1用)のCD-ROMドライブに セットしてください。

 CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す)か、電源を OFF/ONしてExpress5800/ftサーバを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動し、「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。



5. 次のメッセージが表示されたら内容を読み、<Enter>キーを押す。

```
このプログラムはシステムドライブのすべてのファイルを削除し、
Windows Server 2003 を再インストールします。
その後、Express5800/ftサーバに適切なソフトウェアをインストールします。
注意 - BIOSの「Boot Monitoring」の設定を「Disabled」に変更してください。
詳しくはユーザーズガイドを参照ください。
注意 - このプログラムはシステムをリブートします。
CD-ROMはドライブに残してください。
警告 - 実行する前に、システムドライブのすべてのデータのバックアップを
とってください。
続けるなら、"Enter"中止するなら"CTRL-C"を押してください。
```

次のメッセージが表示され、ディスクが初期化されます。次のメッセージが表示されている間は ディスクの初期化が行われています。しばらくお待ちください。

Express5800/ftサーバ クリアインストールを開始しました。 ディスクを初期化しています・・・

ディスクの初期化完了後、Express5800/ftサーバは自動で再起動します。再起動後、次のメッ セージが表示され、ハードディスクドライブのフォーマットが始まります。



■ 画面に一瞬、「一旦リブートを行います。」と表示されますが、本体装置は自動で再起動します ■ ので、何も操作せず、そのままお待ちください。

SWインストール 継続中・・・

ドライブをフォーマットしています・・・ FORMAT v7.10 (Revision4.11.1364) Copyright(c) 1989 2002 Datalight, Inc.

Formatting 3.07G XX percent complete.

ハードディスクドライブのフォーマット完了後、CD-ROMからExpress5800/ftサーバ システム ソフトウェアをシステムドライブヘコピーするメッセージが表示されます。

コピーが完了するまで5分ほどお待ちください。

Copyright(c) 1989 2002 Datalight Inc

Formatting 3.07G 100 percent complete Writing out file allocation table Complete Calculating free space (this may take several minutes). . . Complete. Format complete. System transferred

> 3,068.90 MB total disk space 114,688 bytes used by system 3,068.79 MB available on disk

4,096 bytes in each allocation unit. 785,606 allocation units available on disk

Volume Serial Number is XXXX-XXXX

CD-ROMからExpress5800/ftサーバ システムソフトウェアをシステムドライブへ コピーしています。・・・5分ほどお待ちください。 6. コピー完了後、次のメッセージが表示されるので、CD-ROMを取り出して<Enter>キーを押す。 自動的に再起動されます。

```
Express5800/ft サーバ ソフトウェアがコピーされました。
CD-ROMを抜いて、Enterキーを押下して終了してください。
ハードディスクから再起動されます。
```

₩O III B

再起動前に必ずCD-ROMドライブからCD-ROMを抜いてください。CD-ROMを挿入したまま 再起動が開始されると、CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動さ れます。

7. 再起動後、次のメッセージが表示されるので、以下のように操作する。

```
ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを利用する場合は、CD-ROMを挿入してください。
ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを利用しますか[Y,N]?
```

- お手元に「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」がある場合 「Y」を入力してください。
- お手元に「tt制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」がなく「EXPRESSBUILDER」のみでイン ストールを行う場合 「N」を入力してください。
- ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMの利用可否を再確認するメッセージが表示される。
 選択が正しい場合は、「Y」、間違っている場合は「N」を入力してください。

ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを利用します。よろしいですか[Y,N]?

または

```
ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを利用しません。よろしいですか[Y,N]?
```

9. <「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」の利用を選択した場合のみ >

次のメッセージが表示されるので「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」をCD-ROMドライブ にセットし、<Enter>キーを押す。

```
ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを利用する場合は、CD-ROMを挿入してください。
```

ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを利用しますか[Y,N]?Y ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを利用します。よろしいですか[Y,N]?Y

ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを挿入し、Enterキーを押下してください。

₩-0 IIII

「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」の利用を選択しなかった場合、上記のメッセージは表示されません。手順10へ進んでください。

10.「重要:確認1」メッセージが表示されるので、内容を読み、画面の指示に従って操作する。

Disk増設ユニットへセットアップしている場合には、Disk増設ユニット向けPCIボード(SCSIコントローラ)は、実装された状態で問題ありません。

*** 重要:確	認1 ***
- オプションのPCI	ボードは取り外していますか?
取り外していな	こい場合はftサーバセットアップを中断し、
オプションのP	CIボードをすべて取り外してから
再度インストー	- ルをやり直してください。
(注)オプション	のPCIボードが実装されている場合、
セットアッ	プが正常に完了しません。

```
インストールを中断しますか[Y,N]?
```

11.「重要:確認2」メッセージが表示されるので、内容を読み、画面の指示に従って操作する。

Disk増設ユニットヘセットアップしている場合には、ハードディスクドライブをDisk増設ユニットのスロット1に1台のみ搭載してください。

```
*** 重要:確認2 ***
-ハードディスクはPCIモジュール (グループ1) スロットに1台のみ
セットしていますか?
ハードディスクが2台以上セットされている場合はftサーバセットアップを
中断し、PCIモジュール (グループ1) スロット1以外のハードディスクを
すべて取り外してから再度インストールをやり直してください。
(注)ハードディスクが複数台セットされている場合には、インストール先
とするディスクを特定できません。
```

インストールを中断しますか[Y,N]?

12.「重要:確認3」メッセージが表示されるので、内容を読み、画面の指示に従って操作する。

*** 重要:確認3 ***
テープ装置などの外部SCSI機器は内蔵のSCSIコネクタから 取り外していますか?
取り外していない場合はftサーバセットアップを中断し、 外部SCSI機器を取り外してから再度インストールをやり 直してください。
(注)外部SCSI機器が接続されている場合、セットアップ が正常に完了しません。

インストールを中断しますか[Y,N]?

13.「重要:確認4」メッセージが表示されるので、内容を読み、画面の指示に従って操作する。

*** 重要:確認4 ***
-PCIモジュール2は取り外されていますか?
PCIモジュールは、PCIモジュール1のみを実装してください。
PCIモジュール2が実装されている場合には、
PCIモジュール2を取り外してください。
- すべてのCPUモジュールは実装されていますか?
実装されていないCPUモジュールがある場合には、
実装されていないモジュールを実装してください。
PCIモジュール2を取り外し、PCIモジュール1、
両CPUモジュールを実装後、何かキーを押してインストールを
継続してください。
Strike a key when ready...

14.「重要:確認5」メッセージが表示されるので、内容を読み、画面の指示に従って操作する。

*** 重要:確認5 ***
 -LANケーブルは本体より取り外していますか?
 接続されている場合はケーブルを取り外してください。
 取り外し後、何かキーを押してインストールを継続してください。
 Strike a key when ready...

15. < 「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」の利用を選択した場合のみ >

次のメッセージが表示されるので、コピーが完了するまで3分ほど待つ。



「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」の利用を選択しなかった場合、上記のメッセージ は表示されません。手順16へ進んでください。

16. Windows Server 2003のCD-ROMを要求するメッセージが表示されるので、画面の指示に従ってWindows Server 2003 Enterprise Edition CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入する。

Windows Server 2003のCD-ROMを差し込んでください。

Strike a key when ready ...

17. OSをインストールするパーテーションサイズの入力メッセージが表示されるので、OSをインストールするパーテーションサイズを入力して、<Enter>キーを押す。

₩O III S

「Step B-1 OSを再インストールするときのセットアップ手順の開始」の「作成するパーティ ションサイズについて」(4-12ページ)を参照し、必ず必要最小限以上のパーテーションサイズ を指定してください。必要最小限未満のパーテーションサイズを指定した場合は、インストー ルに失敗することがあります。

```
作成するシステムパーテーションサイズを半角数字で入力してください。
注1:設定できる最小のパーテーションサイズは3072メガバイトです。
1ギガバイトは1024メガバイトです。
注2:設定したサイズが実際のHDDの容量より大きい場合は、
パーテーションサイズはディスク全体になります。
注3:ディスク全体をシステムパーテーションにする場合は、
ALLと入力してください。
サイズ?(単位:メガバイト)
```

18. OSをインストールするパーテーションサイズの入力確認メッセージが表示されるので、正しい 場合は[Y]、間違っている場合は「N」を入力して、<Enter>キーを押す。

```
入力されたシステムパーテーションサイズはXXXXです。
よろしいですか?(Y/N)
```

19. 次のメッセージが表示される。

システムドライブにWindows Server 2003を 20分程お待ちください	·コピーしています・・・
コピー完了後、Windows Server 2003 のインストールが自動的に開始されま す。	<u>Windows セットアッ</u> プ ハードディスクにファイルを北 [*] - しています。しばらくお待ちください・ ファイルを北 [*] - しています 50 %
	コピー中 : XXXXXXXX
 ■● 自動インストール中(手順19~29)); 	は、インストール進行状況をメッヤージ表示するウィ

- 自動インストール中(手順19~29)は、インストール進行状況をメッセージ表示するウィンドウと各アプリケーションのインストールウィザードが表示されますが、インストールは自動的に行われます。「Step C-1 Windowsセットアップウィザード」の開始画面が表示されるまで何も操作しないでください。
- 自動インストール中(手順19~29)、Express5800/ftサーバは、「Step C-1 Windowsセットアップウィザード」の開始画面が表示されるまで、セットアップのために 何度か自動的に再起動を行います。
- **20.** 自動的に再起動されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

Windows セットアップ
ハードディスクにファイルをユビーしています。しばらくお待ちください・
「ファイルを北'-しています 50%
コピー中:XXXXXXX

∎ਾ0≣ਾ

- 再起動時、「Press any key to boot from CD...」が表示されますが何も操作しないでく ださい。
- オペレーティングシステムの選択画面にて「Previous Operating System C:」と表示されることがありますが、絶対に選択しないでください。「Previous Operating System C:」を選択してしまった場合はDOSプロンプトが表示されて処理が停止します。この場合、<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押すか、電源をOFF/ONしてシステムを再起動してください。再起動後、インストールが続行されます。
- **21.** 自動的に再起動された後、ファイルシステムがFAT32からNTFSへ変更され、ファイルシステムの変更が自動的に行われるので、何も操作せず、そのまま待つ。

22. 自動的に再起動された後、セットアップの画面が表示され、自動でセットアップが進行されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

次のセットアップが自動で進行されます。

[情報を収集しています]→[動的な更新]→[インストールの準備をしています]→[Windowsをイン ストールしています]→[インストールの最後処理を行っています]

₩-0 III

- 再起動時、「Press any key to boot from CD…」が表示されますが何も操作しないでください。
- PCIモジュール(グループ1用/グループ2用)の両方が実装されている場合、Windowsのインストール処理中の以下の画面で処理が停止しているように時間がかかる場合があります。
 - Windowsインストール画面表示前のグレー画面
 - Windowsインストール画面(インストール経過を表示している画面)

この場合は、マウスが動作することを確認してください。 マウスが動作している場合には、PCIモジュール(グループ2用)が実装されていることによ り、インストールに時間がかかっているものと考えられます。そのまま処理が完了するのを お待ちいただくか、インストールを初めからやり直していただく必要があります。 なお、時間はかかりますが、インストールは正常に行われます。

本処理にかかる時間: 正常時: 約40分 処理遅延時:約2時間~5時間

- 23. 自動的に再起動されるので、何も操作せず、そのまま待つ。
 - ਰਾ
 - 再起動時、「Press any key to boot from CD...」が表示されますが何も操作しないでく ださい。
 - オペレーティングシステムの選択画面にて「Previous Operating System C:」と表示される場合がありますが、絶対に選択しないでください。「Previous Operating System C:」を選択してしまった場合は黒い画面が表示されて処理が停止します。この場合、
 <Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押すか、電源をOFF/ONしてシステムを再起動してください。再起動後、インストールが続行されます。
- 24. 再起動後、次の画面が表示され、インストールが続行されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

システム設定が自動で行われます。

Express5800/ftサーバ クリアインストール ****** 操作を行わず、しばらくお待ちください。 ****** システムは自動的に再起動されます。 ****** システム設定中 約2分後に自動的に再起動を行います。 ******* Setting [ft series environment] ***** ***** Setting [ft series environment] ***** ***** Checking [disk space] *******

10秒後に再起動します。

┱᠊Ѻ重要

上記実行中のプログラムは絶対に終了させないでください。ウィンドウを閉じるなどして実行 中のプログラムを終了させた場合はインストールが中断されます。インストールが中断された 場合、Windows上の操作は可能となりますが、各モジュールまたはPCIボードが正しく二重化 されません。この場合、初めから「OSを再インストールするときのセットアップ手順」を実施す る必要があります。 25. 自動的に再起動された後、次の画面が表示され、インストールが続行されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

Express5800/ftサーバ ソフトウェアのインストールが自動で行われます。

Express5800/ftサーバ クリアインストール ** 操作を行わず、しばらくお待ちください。 * * ** システムは自動的に再起動されます。 * * *** Setting [ft series environment (Preparation)] *** *** Setting [Timeout for non-communication time] *** *** Installing [IPMI] ** *** Installing [PROSET II] *** *** Setting [Stratus Log Folder] *** *** Copying [ft files] ** *** Installing [SRA_RDRBOOTCONFIG] *** *** Installing [mof files] *** *** Installing [DLL files] *** *** Installing [mof files] *** *** Installing [sra files] *** *** Installing [Stratus ftSAA Network Adapter] *** *** Installing [SMM Services] ** *** Setting [ft registry for ESMPRO] *** *** Installing [RDR Setting Tool] * *** Installing [NEC ESMPRO Agent] ***

₩O III

上記実行中のプログラムは絶対に終了させないでください。ウィンドウを閉じるなどして実行 中のプログラムを終了させた場合はインストールが中断されます。インストールが中断された 場合、Windows上の操作は可能ですが、各モジュールまたはPCIボードが正しく二重化されま せん。この場合、初めから「OSを再インストールするときのセットアップ手順」を実施する必要 があります。

26. 次の画面が表示され、ESMPRO/ ServerAgentのインストールが開始され るので、何も操作せず、そのまま待つ。 ESMPRO/ServerAgentインストール ウィザードが起動し、自動でインストー ルが行われます。



27. 次の画面が表示され、エクスプレス通報 サービスのセットアップが開始されるの で、何も操作せず、そのまま待つ。

> エクスプレス通報サービスSetupウィ ザードが起動し、自動でインストールが 行われます。

InstallShield Wizard		
	インストールの準備をしています。 Report たパラッグは、フログラムをオマックのを通知に第 作了ないためになる場合しています。しまらも評当 くたたい。	
X	8-1-9-29-29-28-0-9-58-148200.4F	
	442.48	

28. 次の画面が表示され、HotFixのインストールが開始されるので、何も操作せず、そのまま待つ。HotFixのインストールウィザードが起動し、自動でインストールが行われます。

Express5800/ftサーバ クリアインストール				
 ** 操作を行わず、しばらくお待ちください。 ** システムは自動的に再起動されます。 ** 				
*** Setting [ft series environment (Preparation)] ***				
*** Setting [TimeOI] Windows Server 2003 KB>>>>> /> /// -F				
الالالالالالالالالالالالالالالالالال				
*** Installing [PRO]				
*** Setting IStratus 現在の構成を検査し、現在のアイルをアーカイブしてアイルを更新しています。しば				
*** Copying [ft files				
*** Installing [SRA] 現在の構成を検査中				
*** Installing [mof t				
*** Installing [DLL				
*** Installing [mof t サード パーティのドライバの一覧を作成しています				
*** Installing [sra fi				
*** Installing [Strati				
*** Installing [SMN (E3(9) 7:7 (**)/01				
*** Setting [ft registry for ESMPRO] ***				
*** Installing [RDR Setting Tool] ***				
*** Installing [NEC ESMPRO Agent] ***				
*** Installing [Express Report Service] ***				
*** Setting [Configuration of ft dump] ***				
*** Setting [Hardware Accelerator] ***				
*** Installing [Hotfix] ***				

∎O iiig

HotFix適用中、極希に以下のアプリケーションエラーが発生する場合があります。この場合 「OK」を押下し、セットアップを続行してください。

\otimes	"0×00690072"の命令が "0×00690072"のメモリを参照しました。メモリが "read" になる ことはできませんでした。
-	プログラムを終了するには [OK] をクリックしてください
	OK

上記アプリケーションエラーが発生した場合は、ユーザーズガイド(セットアップ編)「Step C-1 Windowsセットアップウィザード」完了後にMicrosoft HotFixの適用を行ってください。 Microsoft HotFix適用の詳細はユーザーズガイド(セットアップ編)「Microsoft HotFixの適 用」(5-18ページ)を参照してください。 **29.** HotFixのインストール完了後、インストールが続行されるので、何も操作せず、そのまま待つ。 Express5800/ftサーバ ソフトウェアのインストール完了後、自動で再起動が行われます。

Express5800/ftサーバ クリアインストール	
 ** 操作を行わず、しばらくお待ちください。 ** システムは自動的に再起動されます。 	* * *
<pre>*** Setting [ft series environment (Preparation)] *** *** Setting [Timeout for non-communication time] *** *** Installing [IPMI] *** *** Installing [PROSET II] *** *** Installing [Status Log Folder] *** *** Copying [ft files] *** *** Installing [SRA_RDRBOOTCONFIG] *** *** Installing [mof files] *** *** Installing [mof files] *** *** Installing [mof files] *** *** Installing [Status ftSAA Network Adapter] *** *** Installing [SMM Services] *** *** Installing [RDR Setting Tool] *** *** Installing [RDR Setting Tool] *** *** Installing [Express Report Service] *** *** Setting [Hardware Accelerator] *** *** Setting [Hardware Accelerator] *** *** Setting [MECDUMP] *** *** Setting [Memory copy (Brown copy)] *** *** Setting [WindowsOS] *** *** Setting [Disk] ***</pre>	
10秒後に再起動します。	

ftサーバセットアップは以上です。 再起動後にWindowsセットアップウィザードの画面が表示されます。 次の手順はStep C-1(次ページ)以降になります。「Step C-1 Windowsセットアップウィ ザード」へお進みください。

Step C-1 「Windowsセットアップウィザード」(4-35ページ)へお進みください。

Step C-1 Windowsセットアップウィザード

1. 再起動後、セットアップウィザードの開始画面が表示されるので、[次へ]をクリックする。 以降、使用者名などの設定画面が次々と表示されます。ウィザードに従って操作を行い、必要な 設定をしてください。ウィザードの操作完了後、自動的に再起動されます。

₩O III E

- [ライセンス契約]画面では内容をよく読んでください。同意する場合は、[同意します]をクリックしてから[次へ]をクリックしてください。同意しない場合は、[同意しません]をクリックしてから[次へ]をクリックしてください。ただし、同意しないとセットアップは終了し、Windowsはインストールされません。
- セットアップ作業中は、CPUモジュールステータスランプ1、およびPCIモジュールステー タスランプ1が赤色に点灯しますが、モジュールの故障ではありません。

セットアップ作業が完了し、各モジュールが正常に二重化された時点で、CPUモジュール ステータスランプ1とPCIモジュールステータスランプ1は消灯し、CPUモジュールステー タスランプ2とPCIモジュールステータスランプ2は緑色に点灯します。各モジュールラン プの表示状態の詳細については、別冊のユーザーズガイドの「ランプ」を参照してください。

- Windows Server 2003のプロダクトIDの入力は要求されません。プロダクトIDは自動 で設定されており、入力の必要がありません。
- 2. 次のメッセージが表示されるので、何かキーを押して処理を続行する。

₩O EE

画面の前面にWindowsのスタートメニューが表示されます。背後にあるコマンドプロンプト画面をアクティブにし、何かキーを押して処理を続行してください。

 次のメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、何かキーを押す。

EXPRESSBUILDERのCDをCD-ROMドライブに挿入してください。

続行するには何かキーを押してください...

4. 次の画面が表示されるので、画面の指示に従ってCD-ROMドライブからCDを抜き、何かキーを 押す。

自動的に再起動されます。

-0 iee

BIOSの「Boot Monitoring」の「Enabled」への設定変更は本ユーザーズガイドに従い、「Step C-11 起動監視機能の設定を有効にする」(4-58ページ)で実施してください。

5. 再起動後、管理者(Administrator)権限のユーザー名でログオンする。

₩O 重要

ftサーバセットアップにおいてHotFix適用中に以下のアプリケーションエラーが発生した場合は、ログオン後にMicrosoft HotFixの適用を行ってください。

Microsoft HotFix適用の詳細はユーザーズガイド(セットアップ編)「Microsoft HotFixの適用」(5-18ページ)を参照してください。



6. CPUモジュールが二重化したことを確認し、システムをシャットダウンする。

π- 0	重要		
CPUモジュールの二重化確認方法			
CPU T リーン さい。	Eジュールステー 点灯しており、	·タスランプ2のみがCPUモジュール(グループ1用/グループ2用)共にグ 以下のメッセージがイベントログに出力されていることを確認してくだ	
	「ソース: 種類: イベントID: 説明:	srabid 情報 4137 Memory consistency check has completed memory scan.]	

7. 取り外していたPCIモジュール(グループ2用)を実装する。

Disk増設ユニット実装ハードディスクドライブへOSをインストールした場合は、Disk増設ユニット用PCIボード(SCSIコントローラ)とのSCSIケーブルも接続する。

- 8. Express5800/ftサーバの電源をONにし、OSを起動する。
- 9. OSの起動後、管理者(Administrator)権限のユーザー名でログオンする。

Step C-2 106キーボードの設定

SSU(サーバスイッチユニット)経由でキーボードを接続していない場合には「Step C-3 Windows Server 2003 Service Packインストール」(4-39ページ)へ進んでください。

SSU(サーバスイッチユニット)経由で106キーボードを接続し、システムのインストールを 行うと106キーボードが101キーボードとして認識され、システムに登録されます。

そこで、アップデートを行い、101キーボードとして登録されている情報を106キーボード に変更し、SSU経由で106キーボードを使用できるように情報を変更します。



- 再インストールの際にSSU経由で、キーボードを接続していた場合のみ必要となる設定 です。その他の場合は設定する必要ありませんので次に進んでください。
- この設定を実行するには、管理者またはAdministratorsグループのメンバとしてログイ ンしなければなりません。

アップデート実行手順を以下に説明します。

1. 「EXPRESSBUILDER ICD-ROMまたは「Express5800/ftサーバシリーズ ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」に格納されているSsu106¥update.exeを実行する。

セットアップ画面が表示されます。

2. [OK]をクリックする。

セットアップ メッセージ ? 日本語版アップデート媒体で アップデート作業を中断するな ってください。継続するなら、[OK]ボタンをクリックしてください かけれ アップデートが終了すると、システムの ? Windows 2000 のアップデートを終了しました。 アップデートされたシステムを実行するには、システムの再起動が必要です。 再起動なら [OK] ボタン、システムに戻るには「キャンセルボタンをリックしてください。 再起動を促すメッセージボックスが表示 OK キャンセル

他にアップデートを適用する必要がない場合は、[OK]をクリックし、システムの再起動を行って ください。 他にアップデートを適用する必要がある場合は、[キャンセル]をクリックし、アップデートを 継続してください。

されます。

106キーボードが106キーボードとして認識されている環境ではアップデートは行われず、処理 は中断されます。

アップデートでの修正内容は、システムの再起動後に有効となります。

Step C-3 Windows Server 2003 Service Packインストール

Windows Server 2003 Service Packを適用しない場合には「Step C-4 LANの二重化を 設定する」(4-40ページ)へ進んでください。

Windows Server 2003 Service Packインストール

「初めて電源をONにするときのセットアップ」、「OSを再インストールするときのセットアッ プ」(ftサーバセットアップ)直後は、システムにWindows Server 2003 Service Packは適 用されておりません。

ユーザーズガイド(セットアップ編)「Windows サービスパックの適用」(5-16ページ)を参照 し、Windows Server 2003 Service Packを適用してください。



- Windows Server 2003 Service Packを適用した場合は、必ずMicrosoft HotFixの適用を行ってください。
 - Windows Server 2003 Service Packを適用は後日行うことも可能です。この場合、必ずMicrosoft HotFixの適用も合わせて行ってください。

Microsoft HotFixインストール

Windows Server 2003 Service Packを適用した場合は、必ずMicrosoft HotFixの適用を 行ってください。

ユーザーズガイド(セットアップ編)「Microsoft HotFixの適用」(5-18ページ)を参照し、 Microsoft HotFixを適用してください。

Step C-4 LANの二重化を設定する

Express5800/ftサーバでは、PCIモジュール上に標準で搭載されている「Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter」(100Base)、および「Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter」(1000Base)を使用してLANの二重化を構築します。

使用しない(ケーブルを接続しない)イーサネットアダプタについては、コントロールパネルの[ネットワーク接続]などで無効に設定してください。

なお、無効にするイーサネットアダプタでLANの二重化を解除してから無効の設定を行って ください。

無効の設定を行っておらず、イーサネットアダプタにケーブルを接続していない場合、 ESMPRO/ServerAgentではそのポートを故障(媒体なし)と判断し、データビューアの [FtServer]-[PCIモジュール]-[イーサネットボード]の状態色は赤(異常)、また総合ビュー アのサーバの状態色も赤(異常)となります。



この設定を実行するには、管理者またはAdministratorsグループのメンバとしてログインし なければなりません。

1. 以下のどちらかのスタートメニューモードを使用し[Intel PROSet Ⅱ]ダイアログボックスを表示 させる。

標準のスタートメニューモード

[スタート]メニューから[コントロールパネル]-[Intel PROSet Ⅱ]をクリックする。

クラシックスタートメニューモード

- ① [スタート]メニューから[設定]-[コントロールパネル]をクリックする。
- ② [Intel PROSet I]アイコンをダブルクリックする。
- NetWork Component Treeから[NetWork Components]を選択してポップアップメニューから [Create Team] - [Fault Tolerance]を選択する。



NetWork Component Treeに[Team #1: Adaptive Fault Tolerance Mode]が追 加されます。



3. NetWork Component Treeから[Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter]を選択し、ポッ プアップメニューを表示させて[Add to team]-[Team #1: Adaptive Fault Tolerance Mode] を選択してアダプタを追加する。

追加後、警告メッセージが表示されますが、問題ありません。そのまま[OK]をクリックしてください(まだ1つしか追加していないために表示されるメッセージです)。



 手順3と同じように、NetWork Component Treeから[Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter #2]を選択し、ポップアップメニューを表示させて[Add to team]-[Team #1: Adaptive Fault Tolerance Mode]を選択してアダプタを追加する。

₩O III

それぞれのアダプタに対し、[Preferred Primary]、[Preferred Secondary]は指定しないでください。

5. 「Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter」(1000Base)についても二重化設定を行う。

同じように手順2~4を行ってください。その際、[Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter] を[Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter」に読み替えて選択してください。

また、手順2で、[Fault Tolerance]だけではなく、[Load Balancing]の設定をすることもでき ます。その場合は、[Team #X:Adaptive Load Balancing Mode]が追加されます。

₩O IEE

[Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter]は、Load Balancingが設定できません。Fault Toleranceのみ設定可能です。

6. 転送速度をハブと同一の値に設定する。

転送速度の設定には、PROSet II を使用します。 PROSet II の左側のツリーにて変更するアダプタを選択してください。 選択可能なアダプタは、「Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter」および「Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter」です。 100Base/1000Baseそれぞれ2ポートずつ、計4ポート分、すべて設定してください。

「Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter」の場合

[Advanced]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]にて設定を行います(転送速度を固定に 設定する)。ハブ側の設定も転送速度を固定してください。

「Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter」の場合

[Link Config]タブをクリックし、[AutoNegotiation]にて[Enabled]を選択し、[Negotiable Speed and Duplexes]で転送速度を設定します(使用する転送速度を1つだけチェックする)。

7. [OK]をクリックする。

しばらくすると、[Intel(R) PROSet I] ダイアログボックスが閉じ、設定が有効 になります。



ਰਾ

- [デジタル署名が見つかりませんでした]ダイアログボックスが表示されることがあります。
 表示された場合は[はい]をクリックしてください(複数回表示されます)。
- 二重化設定を終了後、[ネットワークとダイヤルアップ接続]または[デバイスマネージャ] ダイアログボックスに[Intel(R) Advanced Network Services Virtual Adapter」が 表示されるようになります。このため100Base/1000Base合わせて6個のアダプタが 表示されるようになります。このアダプタの「状態」を「無効」に設定しないでください。再 度、「有効」に戻すと、システムが不安定になり、再起動が必要になる場合があります。
- IPアドレスは、LANの二重化設定後、「Intel(R) Advanced Network Services Virtual Adapter」に設定してください。「Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter」および「Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter」にはIPアドレ スを設定しないでください。
- 二重化設定(Team)した際はハブを使用する必要があります。AFT機能を使用する場合、 リピータ・ハブ、スイッチング・ハブのどちらも使用できます。ALB機能を使用する場合 は、スイッチング・ハブを使用してください。
- LANケーブルはプライマリ、セカンダリ両方のPCIモジュールに接続してください。二重 化設定を終了後、片方のLANケーブルを抜くとPCIモジュールの二重化が外れてしまいま す。もしLANケーブルを抜いてPCIモジュールの二重化が外れてしまった場合、再度LAN ケーブルを接続すれば二重化状態に戻ります。
- 100Baseアダプタに接続するハブは、転送速度を固定に設定できるものを使用してください。

Step C-5 Stratus ftSAA Network AdapterのIPアドレス設定

「Stratus ftSAA Network Adapter」にIPアドレスを設定します。

π-0 重要

本設定を行わない場合、アプリケーションイベントログに以下の警告が表示され、Stratus ftServer SSNサービスを開始することができません。

「ソース 種類 イベントID 説明	: sra_ssn : 警告 : 10346 : Unable to add 192.168.1.X to the routing table」
「ソース 種類 イベントID 説明	: sra_ssn : 警告 : 10336 : Retry starting for ftSAA 192.168.1.X host log connection.]
また、上記の れます。	警告ログが表示された場合はシステムイベントログにも以下のエラーが表示さ
「 ソース 種類 イベントID 説明	: Service Control Manager : エラー : 7031 : Stratus ftServer SSNサービスは予期せず終了しました。これはX回発 生しています。 次の修正動作が10000ミリ秒以内に行われます:サービスの再開」
「 ソース 種類 イベントID 説明	: Service Control Manager : エラー : 7032 : サービスコントロールマネージャ: Stratus ftServer SSNが予期せず終 了した後、修正動作(構成された回復プログラムの実行)を試みましたが、 この動作は次のエラーで失敗しました:指定されたファイルが見つかりま せん。」

「Stratus ftSAA Network Adapter」のIPアドレスの設定手順を以下に説明します。

1. 以下のどちらかのスタートメニューモードを使用し[ネットワーク接続]を表示させる。

標準のスタートメニューモード

[スタート]メニューから[コントロールパネル]-[ネットワーク接続]をダブルクリックする。

クラシックスタートメニューモード

[スタート]メニューから[設定]-[コントロールパネル]-[ネットワーク接続]をダブルクリックする。

デバイス名が「Stratus ftSAA Network Adapter」であるLANを右クリックし、プロパティを開ける。

3. [インターネットプロトコル(TCP/IP)]を 選択し、[プロパティ]をクリックする。

≟ ローカル エリア接続 3のフロパティ 🔹 💽 🗵				
全般 認証 詳細設定				
接続方法:				
IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII				
この接続は次の項目を使用します(Q):				
Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有				
▶1 インストール(M) アンインストール(M) プロパティ(R)				
「説明 伝送表判師プロトコル/インターネット プロトコル。相互接続、 ・・・・・・・・・ ネットワーク間の通信を提供する、既定のワイド エリア ネッ・・・・・ クロトコ ルです。				
 「接続時にご通知時載販にインジケータを表示する(M) ✓ 接続が限られているか利用不可能な場合にご通知する(M) 				
閉じる キャンセル				

4. [次のIPアドレスを使う(S)]を選択し、以下のIPアドレスを記入する。

IPアドレス : 192.168.1.3 サブネットマスク : 255.255.255.0 デフォルトゲートウェイ:なし	インターネット プロトコル (TGP/IP)のプロパティ
│ ┱ ── 重要	ሶ መ ማሥነ ዓቀት ፋሬሬት-መሳቶ ተላ (*) ር ንሐብ ቦ ወይነ / ንጵ/ቶችሮ)
この設定は、「Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter」、および 「Stratus emb-82544GC Copper	 ● 780 B* 7F しんを取り込む ■ 7F しんを取り込む ■ 192 168 1 3 ● サドレスΦ: ■ 192 168 1 3 ● サオネット マスク(U): ■ 255 255 0 ● デフォルト ゲートウェイ(D):
Gigabit Adapter」などのイーサネットアダプタの設定とは関係ありません。	 ○ 法の DNS サーバーのアドレスを使う(E): 優先 DNS サーバー(P): (代替 DNS サーバー(A):
「Fアトレス」、「サフネットマスク」、 「デフォルトゲートウェイ」に対して本 設定値を固定で設定してください。そ の他の情報は設定しないでください。	詳細設定()/ OK キャンセル

- 5. [ネットワーク接続]で「Stratus ftSAA Network Adapter」の「状態」が「有効」となっていることを 確認し、システムを再起動する。
- 6. 再起動後、管理者(Administrator)権限のユーザー名でログオンする。

Step C-6 ディスクの二重化を設定する

「初めて電源をONにするときのセットアップ手順」を実施している場合は、「Step C-8 各種オプション装置の接続・設定を行う」(4-53ページ)へ進んでください。 Express5800/ftサーバ出荷時点では、お客様がすぐに使用できるように以下の設定は実施済みとなっております。

Express5800/ftサーバでは、「ディスクの管理」または「RDR(Rapid Disk Resync)機能」に よりディスクの二重化を行い、データの保全を図ります。 各手順を参照し、必ずディスクの二重化を設定してください。

- 本操作(ディスクの二重化設定)は、「ディスクの管理」または「RDR(Rapid Disk Resync)機能」により実施してください。その他のディスク管理ツール(VERITAS Storage Foundationなど)をご利用予定の場合には、「Step C-12 障害処理のため のセットアップ」(4-59ページ)以降でインストールを行ってください。
 本操作を「ディスクの管理」または「RDR(Rapid Disk Resync)機能」以外で実施した 場合には、システムの再起動時にミラーの同期外れが発生することがあります。
 - 「初めて電源をONにするときのセットアップ手順」を実施している場合は、ディスクの 二重化は設定してありますので、この作業は必要ありません。「Step C-8 各種オプ ション装置の接続・設定を行う」(4-53ページ)へお進みください。
- RDR(Rapid Disk Resync)機能対応モデル以外の場合

「ディスクの管理によるディスク二重化手順」(4-45ページ)へお進みください。

● RDR(Rapid Disk Resync)機能対応モデルの場合

「RDR(Rapid Disk Resync)機能によるディスク二重化手順」(4-48ページ)へお進みください。

ディスクの管理によるディスク二重化手順

- Cの手順を実行するには、管理者またはAdministratorグループのメンバとしてログ インしなければなりません。。
 - OSインストール時だけでなく、以降パーティションを作成する際も必ず同様にミラー リングを行ってください。
 - ミラーのためのディスクは、必ずシステムパーティションがあるディスクをダイナミックにアップグレード後に対応したスロットにセットしてください。アップグレードする前にディスクはスロットにセットしないでください。
 - ミラーを設定するディスクは、ディスクのターゲットIDが同一のもので設定してください。詳細については、別冊のユーザーズガイドの「構築可能なディスク構成について」を参照してください。
- 1. [スタート]-[管理ツール]-[コンピュータの管理]をクリックする。

[コンピュータの管理]ダイアログボックスが表示されます。

2. コンソールツリーで[記憶域]配下の[ディスクの管理]をクリックする。

3. 右パネルにハードディスクドライブの一覧を表示させ、システムがインストールされているディ スクを右クリックし、[ダイナミックディスクに変換]をクリックする。



 変換するディスクがシステムをインス トールしたディスクであることを確認 し、[変換]をクリックする。

ダイナミックにアップグレードする際、 「前のWindowsを起動できない」や「強制 的にマウントを解除」のメッセージが表示 されますが、[はい]をクリックして、再 起動してください。 その場合、複数回再起動を要求された 場合は、指示に従って再起動をしてくだ さい。

変換するディスク	<u>? × </u>
ダイナミック ディスクになるディスクは	次の一覧に表示されます。
ディスク(型):	
ター・ ディスクローシステムパーティン	実施予定
】 【単糸冊(E)	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	変換(0) キャンセル

5. 再起動後、再び[ディスクの管理]を表示し、ミラーボリュームを作成するためのディスクをセットする。

₩O III

ディスクのステータスが「初期化していない」の場合には、「初期化していない」ディスクで 右クリックして初期化を実施してください。 [異形式]と表示された場合は、[ベーシックディスクに戻す]を実行した後、[ダイナミックディ スクに変換]を実行してください。

ミラーリングするディスクは必ず対応したスロットにセットする必要があります。詳細につい ては下図を参照してください。



- セットしたディスクがダイナミックディ スクではない場合は、ディスクを右ク リックし、「ダイナミックディスクに変 換」を実行する。
- ミラーを作成するダイナミックディスク のボリュームを右クリックし、[ミラーの 追加]をクリックする。

<u>男</u> ファイル(E) 操作(A) 表示(V)	ウィンドウ(型	0 1170	Ð	
 □ 」ンとュータの管理(ローカル) □ 」ンとュータの管理(ローカル) □ 」 (コーカル) □ □ □ 」 (コーカル) □ □ □ 」 (コーカル) □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	ポリューム DEM	レイア・ 、 かった 、 かった	7ト 種类類 1. タイナミック -ラ(E) 1. オイナミック か(A) 学どれなの変更 (D) D)再アクティブ(E) D)再「「你介(D) E)	©
	マラーデー ダイナミッ 16.94 GE オンライン	1 25 1 ይ	16.94 GB 未割り当て	5
	■未動	当? ""?	 ソプル ボリューノ	

≖0iii

 [ミラーの追加]をクリックする と、[論理ディスクマネージャ] ダイアログボックスが表示されま すが問題ありませんので、[OK]を クリックしてください。

ミラーの生成中に再起動するとミラーが完了しません。ミラーの処理が完了するまでは再起動しないでください。

ミラーの生成には、18GBのハードディスクドライブで約37分かかります。

8. ミラーリングが始まったことを確認してください。

愛 ディスク 0 ダイナミック 1694 GB オンライン	OEM (C:) 1000 GB NTFS 面同期中: (1%) (システム)	12.94 GB 未割り当て
 ディスク1 ダイナミック 16.94 GB オンライン 	OEM (C-) モロU GB NTFS 車同期中: (1%) (システノ-)	12.94 GB 未割り当て

9. 表示が「再同期中」から「正常」に変化したらミラーは完了です。

愛 ディスク 0 ダイナミック 16.94 GB オンライン	0EM (C:) ル の GB MITS 正常 ジステム	12.94 GB 末書的当て
愛 ディスク 1 ダイナミック 16.94 GB オンライン	OEM (C:) ルロ・GB MITS 正常 ジステム	12.94 GB 未割り当て

RDR(Rapid Disk Resync)機能によるディスク二重化手順

RDR機能対応モデルでは、ft制御ソフトウェアのRDR機能によりディスク単位の二重化を行います。RDRを設定することで、下図表のように対応するスロットのディスク同士で二重化され、Windows(ディスクの管理やデバイスマネージャ等)からは1つの仮想ディスクとして認識されます。



対応するスロット	RDR Utilityでの仮想ディスク名
PCIモジュール#1 スロット1⇔PCIモジュール#2 スロット1	RDR Virtual Disk 1
PCIモジュール#1 スロット2⇔PCIモジュール#2 スロット2	RDR Virtual Disk 2
PCIモジュール#1 スロット3⇔PCIモジュール#2 スロット3	RDR Virtual Disk 3

* 上表においてPCIモジュールの名称は以下のように対応しています。 PCIモジュール(グループ1用) – PCIモジュール#1 PCIモジュール(グループ2用) – PCIモジュール#2

- この手順を実行するためには、管理者またはAdministratorグループのメンバとして 回
 ログインしなければなりません。
 - RDRはExpress5800/ftサーバの内蔵スロットに挿入したベーシックディスクにのみ 設定できます。ダイナミックディスクには設定できません。
 - RDRを設定するディスクは、ディスクの全体容量が同一のものを使用してください。
 - OSインストール時だけではなく、PCIモジュールにディスクを増設した場合は、必ず 同様にRDRを設定してください。

RDRキーの登録

はじめてRDR機能を使用する場合は、以下の手順でキーを登録してください。

- 1. 装置添付の「RDR Key FD」をフロッピーディスクドライブに挿入する。
- 2. [スタート]-[すべてのプログラム]-[アクセサリ]-[エクスプローラ]からエクスプローラを起動し、FD内の[RDRreg.bat」をダブルクリックする。
- 3. コマンドプロンプトに「RDR registration has completed.」メッセージが表示され、RDR機能が 使用可能となる。
- 4. コマンドプロンプト上で何かキーを押し、ウィンドウを閉じる。

ディスク二重化手順

 [スタート]-[すべてのプログラム]-[RDR]-[RDR Utility]をクリックし、RDR Utilityを起動 する。

- RDR Utilityの詳細については別冊のユーザーズガイドの「3 Windowsの操作と設定」ー「ディ スクの操作」ー「RDR(Rapid Disk Resync)機能によるディスク操作」を参照してください。
- RDR Utilityの表示は自動更新されません。ディスクの挿抜やRDRの設定などディスクに関 する操作を行った場合は、その都度、メニューから[操作]ー[更新]をクリック(または、F5 キー押下)し、表示を更新してください。
- RDR Utilityでは、PCIモジュールの内容は以下のように対応しています。
 - ・ PCIモジュール (グループ1用) ーPCI module1
 - ・ PCIモジュール(グループ2用)ーPCI module2
- RDR Utilityの左ページからシステムがインストールされているディスク(PCIモジュール(グループ1用)のスロット1)を右クリックし、[RDRを設定]をクリックする。

ディスクの状態によりRDRの設定に時 間がかかり、RDR Utilityが数分間停止 した状態となる場合がありますが、異 常ではありません。そのままお待ちく ださい。



ਰਾ

システムパーティション、またはアンマウントできないパーティションを含むディスクにRDR を設定した場合、以下のポップアップが表示され、[はい]をクリックすると、2分後に自動で再 起動されます。再起動後に手順3移行を実施してください。

System I	Restart Warning 🔀	システム	のシャットダウン 🗵
8	To complete the RDR Virtual Disk configuration change, restart Windows. Until you restart Windows, the disk will not be usable. Do you want to restart Windows now?	8	システムはシャットダウンされます。)銀行中の作業をすべ ては存れ、ログラしたない。(保存れていない情報 (気をがれます。シャットダウンは、NT AUTHORITYAY)STEM によって開始されました シャットダウンまで: 000155 - シャセージ
			This system will reboot in 2 minutes to complete the RDR Virtual Disk configuration change. This action CANNOT be cancelled! No further warning will be given.

3. 二重化するディスクを対応するスロット(この場合は、PCIモジュール(グループ2用)のスロット 1)に挿入する。

ディスク挿入後、挿入したディスクにRDRが自動で設定され、同期が開始します。

₩O iii

挿入するディスクは、同期もとのディスクと同容量で、新品もしくは物理フォーマットしたディ スクを使用してください。それ以外のディスクの場合、正常に二重化されません。

- * 物理フォーマットは、別冊のユーザーズガイドの「4 システムのコンフィグレーション」-「SCSI BIOS~Fast!UTIL~」を参照し、SCSI Disk Utilityで「Low-Level Format」を 行ってください。Low-Level Formatを行う際は、BIOSセットアップユーティリティの 「Advanced」-「Monitoring Configuration」-「Option ROM Scan Monitoring」を 「Disabled」にしてください。設定方法については、別冊のユーザーズガイドの「4 システ ムのコンフィグレーション」-「システムBIOS」を参照してください。
- 4. ディスクの同期が開始され、DISKランプおよびRDR Utilityの表示が以下の状態に変化することを 確認する。

■ 同期中

	הופע=יש	RDR Utility	
	DISK J J J	状態	ステータス
同期元ディスク	アンバー点灯	Simplex	_
同期先ディスク	グリーン点灯	Syncing	_
RDR Virtual Disk	_	Simplex	Resync x percent (x=0, 10, 20,, 90)



₩

- 同期に必要な時間は、ディスク上に存在するパーティションサイズにより異なります。
 18GBのパーティションの場合、約16分です。パーティションがない場合、RDR設定後、すぐに同期が完了し同期完了時の状態に変化することがあります。
- 同期中にシステムを再起動するとディスクの二重化が完了しません。同期処理が完了するまで再起動しないでください。

■ 同期完了

	רבאפוס	RDR Utility		
	DISKJJJJ	状態	ステータス	
同期元ディスク	グリーン点灯	Duplex	_	
同期先ディスク	グリーン点灯	Duplex	_	
RDR Virtual Disk	—	Duplex	None	



₩O III

- RDRを設定し二重化したディスクに新たにパーティションを作成した場合、作成した パーティション領域の同期が自動で行われます。
- RDRを設定した二重化したディスクをダイナミックディスクに変換した場合、変換時に同期されていない全領域(パーティションが存在しない領域)の同期が行われます。
- 電源ボタン押下などによりWindowsを正常に終了せずシステムを停止した場合、シス テム再起動後、同期していた全ディスク領域の再同期が行われます。

Step C-7 各種ソフトウェアのアップデート

「初めて電源をONにするときのセットアップ手順」を実施している場合は、「Step C-8 各種オ ブション装置の接続・設定を行う」(4-53ページ)に進んでください。 Express/ftサーバ出荷時点では、お客様がすぐに使用できるように以下の設定は実施済みとなっ ております。

以下に従って、必要なアップデートモジュールを適用します。

<「Express5800/ftサーバシリーズ ft制御ソフトウェア(ver:n.n) UPDATE CD-ROM」 を利用した場合>

「Express5800/ftサーバシリーズ ft制御ソフトウェア(Ver:n.n) UPDATE CD-ROM」を利用 してインストールした場合には、CD-ROM内の「ft制御ソフトウェア(Ver:n.n).pdf」を参照し てすべてのアップデートモジュールを適用してください。

ただし、以下については「Express5800/ftサーバシリーズ ft制御ソフトウェア(Ver:n.n) UPDATE CD-ROM」より最新のアップデートモジュールが自動適用されていますので、こ こでの個別のアップデートモジュールの適用は不要です。

- ft制御ソフトウェア(Ver:n.n)アップデートモジュール

ESMPRO/ServerAgentはftサーバセットアップで自動インストールされますが、最新モジュールの適用は行われません。「Express5800/ftサーバシリーズ ft制御ソフトウェア (Ver:n.n) UPDATE CD-ROM」から個別にアップデートモジュールを適用する必要があります。

Step C-8 各種オプション装置の接続・設定を行う

本体装置へ接続するオプションPCIボードおよび周辺装置がある場合は、本体装置の電源を OFFにし、別冊のユーザーズガイドの「PCIボード」および装置の説明書に従って接続してくだ さい。

■ 「初めて電源をONにするときのセットアップ」を実施している場合は、「ビルド・トゥ・オー ダー」以外で購入されたオプションのPCIボード及び周辺装置がある場合にそれらの接続を 行います。

搭載メモリが4GBを超える場合(または、「システムのプロパティ」--「全般」タブ、および「タ スクマネージャ」--「パフォーマンス」タブの物理メモリに表示されるメモリサイズが搭載メ モリより小さい場合)には、BOOT.INIファイルに/PAEスイッチを指定してください。 Windowsシステムから搭載メモリ全体を利用するためには、/PAEスイッチを指定する必要 があります。/PAEスイッチを指定しなかった場合、Windowsシステムからは搭載メモリの 一部分のみを利用します。

指定の方法については、マイクロソフトサポート技術情報を確認してください。 BOOT.INIファイルは以下の手順で表示します。

- 1. マイコンピュータを右クリックして「プロパティ」を選択し、「システムのプロパティ」を表示す る。
- 2.「システムのプロパティ」-「詳細設定」タブの「起動と回復」の「設定」ボタンを押下する。
- 3. 表示された画面の「起動システム」の「編集」ボタンを押下する。

BOOT.INIが以下のような場合の修正例を示します。

(修正前)

[boot loader]
timeout=30
default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT
[operating systems]
multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT="Windows Server 2003, Enterprise" /fastdetect

(修正後)

[boot loader] timeout=30 default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT [operating systems] multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT="Windows Server 2003, Enterprise" /fastdetect /PAE

LANおよびディスクを増設した場合は、二重化設定を行います。詳しい手順については 「Step C-4 LANの二重化を設定する」(4-40ページ)および次の「Step C-9 ボリュームの 作成」を参照してください。

Step C-9 ボリュームの作成

Express5800/ftサーバでは、モデルによってディスクまたはボリューム単位でミラーを行う必要があります。

新たにパーティション/ボリュームを作成した場合は、以下の手順でミラーを行ってください。

- パーティション/ボリュームの作成方法については、Windowsのオンラインヘルプを参照してください。
 - パーティション/ボリュームの作成は運用が開始された後でも可能です。

RDR機能対応モデル以外の場合

ブートボリューム以外に新規にボリュームを作成する場合には、別冊ユーザーズガイドの 「3 Windowsの操作と設定」ー「ディスクの管理によるディスク操作」ー「構築可能なディス ク構成について」を参照し、ボリュームを作成後、ボリューム単位のミラーを行います。ボ リュームのミラー方法については、「Step C-6 ディスクの二重化を設定する」ー「ディスク の管理によるディスク二重化手順」(4-45ページ)を参照してください。

RDR機能対応モデルの場合

内蔵ディスクはRDR機能によってディスク単位のミラーを行います。RDRを設定し二重化 したディスクに新規にパーティション/ボリュームを作成した場合、その領域のミラーが自 動で行われます。パーティション/ボリューム単位でミラーを行う必要はありません。 RDR機能によるディスクのミラー方法については、「Step C-6 ディスクの二重化を設定す る」-「RDR(Rapid Disk Resync)機能によるディスクの二重化手順」(4-48ページ)を参照し てください。

Step C-10 ESMPRO/ServerAgent向けのネットワークの設定

ESMPRO/ServerAgent は、Express5800/ftサーバを連続稼働させるために、必要であ り、本装置購入時にすでにインストールされております。また、再インストールの際には自 動的にインストールされます。

ESMPRO/ServerAgentを動作させるためにはSNMPの設定が必要です。

<SNMPサービスの設定変更>

- 1. [コントロールパネル]の[管理ツール]をダブルクリックする。
- 2. [管理ツール]の[サービス]を起動する。
- **3.** サービス一覧から[SNMP Service]を選択し、[操作]メニューの[プロパティ]を選択する。 「SNMPのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4. [トラップ]プロパティシートの[コミュニティ名]ボックスに「public」と入力し、[追加]をクリックする。

ਰਾ

- ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの 「*」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ 名と同じものを入力します。
- ESMPRO/ServerAgentからのトラップがESMPRO/ServerManagerに正しく受信されるためには、双方のコミュニティ名が一致する必要があります。
- 5. [トラップ送信先]の[追加]をクリックし、[IPホストまたはIPXアドレス]ボックスに送信先の ESMPRO/ServerManagerマシンのIPアドレスを入力後、[追加]をクリックする。

トラップ送信先に指定されている相手ESMPRO/ServerManagerのIPアドレス(またはホスト名)をマネージャ通報(TCP/IP)の設定で指定した場合、重複していることを警告するメッセージを表示します。同一のESMPRO/ServerManagerを指定するとアラートが重複して通報されます。

- 6. [セキュリティ]プロパティシートを表示し、以下の設定をする。
 - ●「受け付けるコミュニティ名」に手順4で入力したコミュニティを追加
 - その権利を「読み取り、作成」(「READ CREATE」)または「読み取り、書き込み」(「READ WRITE」)に設定
 - ●「すべてのホストからSNMPパケットを受け付ける」を選択

⊤0重要

- 手順4で「public」以外のコミュニティ名を入力した場合は、「受け付けるコミュニティ名」に もその値を追加してください。
- 「受け付けるコミュニティ名」の権利を「READ CREATE」または「READ WRITE」以外の 権利に設定すると、ESMPRO/ServerManagerからの監視ができなくなります。

<特定のホストからSNMPパケットのみ受信するように設定する場合>

「これらのホストからSNMPパケットを受け付ける」を選び、パケットを受信するホストのIPアドレス、ESMPRO/ServerAgentをインストールするサーバのIPアドレス、およびループバックアドレス(127.0.0.1)を指定する。

<特定コミュニティからのSNMPパケットのみ受信するように設定する場合>

SNMPパケットを受け付けるコミュニティ名をデフォルトの「public」から任意の名前に変更する。

₩O Eee

- コミュニティ名を変更した場合は、[コントロールパネル]からESMPRO/ServerAgentのコミュニティ変更登録を行う必要があります。コミュニティの変更登録には[全般]タブの [SNMPコミュニティ]リストボックスを使います。
- ESMPRO/ServerManagerからのSNMPパケットをESMPRO/ServerAgent側で正しく受信できるようにするためにはESMPRO/ServerManager側の設定の送信コミュニティ名とESMPRO/ServerAgent側のSNMPサービスが受け付けるコミュニティ名を同じにしてください。
- 7. ネットワークの設定を終了する。

_0重要

- ESMPRO/ServerAgentの動作にはSNMPサービスが必須です。ESMPRO/ ServerAgentをインストールした後にSNMPサービスを削除してしまった場合は、 SNMPサービスをインストール後、ESMPRO/ServerAgentを再インストールしてくだ さい。
- 他社製ソフトウェアの中には、SNMPサービスを使用しているものがあります。このよう なソフトウェアがインストールされている状態で、SNMPサービスとESMPRO/ ServerAgentをインストールすると、ESMPRO/ServerAgentのサービスが起動でき ない問題が発生する場合があります。このような場合は、いったんSNMPサービスを削除 して、SNMPサービスを再インストールしてください。その後で、ESMPRO/ ServerAgentと上記他社製ソフトウェアを再インストールしてください。
- ボリュームの作成はシステムの運用が開始された後でも可能です。
 ボリュームを作成する場合には、別冊のユーザーズガイドの「構築可能なディスク構成について」を参照し、ボリュームを作成します。
- ファイアウォールの設定

ファイアウォールの設定が有効となっている場合、SNMPが使用するポート(161/UDP) がブロックされます。 このとき、ESMPRO/ServerManagerとESMPRO/ServerAgentは通信できなくな り、サーバの監視ができません。 以下の手順でポートの開放設定を行ってください。

<Windows Server 2003(サービスパック適用済み)の場合>

1. [コントロールパネル]から[Windows ファイアウォール]をダブルクリックする。

「Windows ファイアウォール」のダイアログボックスが表示されます。

<次ページへ続く>

≖ O重要
2. [例外]タブの[ボートの追加]をクリックする。
ポートの編集
これらの設定を使って、Windows ファイアウォールでポートを開いてください。ポート番号およびプロトコルについては、使用するプログラムまたはサービスのドキュメントを参照してください。
名前(W)(snmp
ポート番号(空)(161
名前 : snmn
ポート番号 :161
このパをフララフロこへにとい。 3. [Windows ファイアウォール]のダイアログボックスを閉じる。
Allindows Conver 2002/サービス パックナ海田)の現合、
<windows 2003(リーとスパック木週用)の場合="" server=""></windows>
2. 使用する接続を右クリックし、「プロパティ]をクリックする。
3. [詳細設定]タブの[設定]ボタンをクリックする。
4. [サービス]タブの[追加]ボタンをクリックする。
サービス設定 ? ×
サービスのWW#目(D):
Isnmp スットワークで「のサードスを本ストしているコンパコータの名前
4≠/4 m 5101.7 (M) 192.168.0.12)(N):
「161 C TCP(T) 「UDP(U)」
とのり = с долларил = r 番号位:
サービスの説明 : snmp
ホストとしているコンピュータ
の名前またはIPアドレス :コンピュータの名前またはIPアドレスを入力 このサービスの外部ポート番号:161
[OK]をクリックしてください。

Step C-11 起動監視機能の設定を有効にする

「起動監視機能の設定を無効にする」で切り替えた「Boot Monitoring」の設定を有効にしま す。Step A-2、もしくはStep B-3「起動監視機能の設定を無効にする」(4-5ページ、もしく は4-19ページ)を参照して「Enabled」に変更してください。

Phoenix BIOS Setup Utility		
Stratu	S	
Monitoring Configu	ration	Item Specific Help
Option ROM Scan Monitoring: Option ROM Monitoring Time-out: Boot Monitoring: Boot Monitoring Time-out Period: POST Pause Monitoring: POST Pause Monitoring Time-out:	[Enabled] [5] [Enabled] [8] [Enable Disabled Enabled	Disables/enables the Option ROM Scan Monitoring features
F1 Help $\uparrow \downarrow$ Select ItemEsc Exit $\leftarrow \rightarrow$ Select Menu	-/+ Change Values F Enter Select ► Sub-Menu	⁻ 9 Setup Defaults 10 Previous Values

Step C-12 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のような セットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

Express5800/ftサーバ内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

₩ ■要	メモリダンプの注意		
	•	メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの 設定のみを行ってください。	
	•	ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンブを保存するために再起動すると、起動 時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、 そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合が あります。	

次の手順に従って設定します。

- [スタート]メニューから[コントロールパネル]を選び、[システム]をクリックする。
 [システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2. [詳細設定]タブをクリックする。
- 3. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。

୬ステムのプロパティ	<u>? x</u>
全般 コンピュータ名 ハードヴ ア [『詳細設定』] 動更新 リモート	
Administrator としてログオンしい、場合は、いらのほとんどの変更はできません。	
パフォーマンス 視覚効果、プロセッサのスケジュール、メモリ使用、および仮想メモリ	
ユーザー フロファイル ログオンに関連したデスクトップ設定	
- 記動と回復 システム起動、システム障害、およびデバッグ情報	
設定①)
環境変数(W) Iラー報告(R)	
OK キャンセル 適用。	<u>4</u>)

 テキストボックスにデバッグ情報を書き 込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」という ファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP

本装置では、インストール時の既定値と して以下のように設定されています。既 定値への格納を推奨します。

%SystemDrive%¥NECDump¥ MEMORY.DMP

記動と回復 ? 2
「起動システム」 既定のオペレーティング システム(S):
🖉 Windows Server 2003, Enterprise 🖌 /fastdetect 🛛 🔽
 ✓ オペレーティングシステムの一覧を表示する時間(T): 30 30
起動のオブション ファイルを手動で編集するには、編集(E) [編集]をクリック:
_ ЎХӯЬ ІӬ−
 ✓ システム ログにイベントを書き込む3000 ✓ 管理者へ警告を送信する(N)
☑ 自動的に再起動する(B)
デバッグ情報の書き込み
完全メモリダンプ
MSystemDrive##NECDump#MEMORY.DMP
「以行のファイノルに上書さする心」
OK キャンセル

₩-0 iiiiiiii

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません (メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、 2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。
- 5. [パフォーマンス]ボックスの[設定]をク リックする。

[パフォーマンスオプション]ウィンドウ が表示されます。

システムのプロパティ	<u>? x</u>
全般 コンピュータ名 ハードウェア (詳細設定) 自動更新 リモート	
Administrator としてログオンしない場合は、これらのほとんどの変更はできません。	
パフォーマンス 視覚効果、プロセッサのスケジュール、メモリ使用、および仮想メモリ	1
設定⑤	
ユーザー プロファイル ログオンパス関連したデスクトップ設定]
- 起動と回復 システム起動、システム障害、およびデパッグ情報	
環境変数(N) Iラー報告(R)	
	9

[パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックする。



7. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリッ クする。

パフォーマンス オプション ?	×		
視覚効果 詳細設定			
ープロセッサのスケジュール プロセッサのリソースをどう割り当てるかを選択します。			
はのパフォーマンスを優先する: C プログラム(P) で 「バックグラウンドサービス(S))			
- メモリ使用量			
次のパフォーマンスを優先する: C プログラム(R) ・ システム キャッシュ(T)			
「仮想メモリ ページング ファイルは、Windows が RAM のように使用するハード ディスク にある領域です。 すべてのドライブの総ページング ファイル サイズ: 19 18 変更(2)			
OK キャンセル 適用(A)			

8. [選択したドライブのページングファイル サイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨] 値以上に変更し、[設定]をクリックす る。

仮想メモリ				? ×
ドライブ [ボリューム ラベル	,](<u>D</u>) 📈	ニージング ファイ	ルのサイズ(ME	3)
C: [OEM]		1024 - :	2048	
 選択したドライブのページ 	シグ ファイル う	ナイズ ―――		
ドライフ: 空き領域:	C: [OEM] 6063 MB			
• カスタム サイズ(C):				
初期サイズ (MB)①:	XXX			
最大サイズ (MB)(>):	XXX	_		
	1			
C ページング ファイルな	έŪΩ)		設定の	
	20. B = 7.0	11 / -P		
- 9へしのトライノの総へー - 最小限・	ンフク ファイル 	91.7		
推奨:	XXX MB			
現在の割り当て	XXX MB			
			1	
		OK		セル

₩O iiie

- 必ずOSパーティションに[推奨]値以上のサイズで作成してください。ページングファイルの[初期サイズ]を「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて」(4-12ページ)を参照してく ださい。
- 障害発生時に備えて、事前にDUMPスイッチを押し、正常にメモリダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。
- 9. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに 従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

Windowsワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエ ラーを検出するとExpress5800/ftサーバを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情 報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

- 1. [スタート]メニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
- [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。

[Windows ワトソン博士]ダイアログ ボックスが表示されます。



3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報 の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で 保存されます。



ネットワークパスは指定できません。 ローカルコンピュータ上のパスを指定 してください。

 [クラッシュダンプ]ボックスにクラッ シュダンプファイルの保存先を指定す る。



「クラッシュダンプファイル」は Windows Debuggerで読むことができ るバイナリファイルです。



- 5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。
 - □ ダンプシンボルテーブル
 - □ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
 - □ 既存のログファイルに追加
 - □ クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てること ができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動 を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めしま す。

[スタート]メニューから[コントロールパネル]を選び、[プログラムの追加と削除]をクリックする。

Windows コンボーネント ウィザード

ビール 「血」を建たた タッール
 「「山」を建たた タッール
 「山」を建たた タッール
 「山」を建たた タッール
 「山」を建たた マットワーク
 説明:
 ネットワーク

必要なディスク領域の合計: 空きディスク領域:

Windows コンポーネント Windows のコンポーネントを追加または削除できます。

[プログラムの追加と削除]のダイアログボックスが表示されます。

2. [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。

[Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

3. コンポーネントの[管理とモニタ ツール] を選択し、画面右下の[詳細]をクリック する。

[管理ツールとモニタ ツール]が表示されます。





各チェックボックスをクリックして、追加または利用をするコンボーネントを選んでください。影付きのチェック ボックスは、コンボーネントの一部がインストールそれることを表します。コンボーネントに含まれているもの を表示するえに、見手編を引つりしてにださい。

ネットワーク パフォーマンスを監視および改善するためのツールた

3.5 MB 765.5 MB P.

詳細(D

- 5. [次へ]をクリックする。
- 6. 「Windows Server 2003, Enterprise Edition」のディスクの挿入を求める画面が表示された場合は、画面の指示に従ってディスクを挿入する。

CD-ROM挿入で表示されるメニューは終了させておきます。終了させるにはメニュー画面の[×] 印をクリックします。

- 7. [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスの[完了]をクリックする。
- 8. [プログラムの追加と削除]ダイアログボックスの[×]印をクリックする。

ネットワークモニタは、[スタート]メニューから[すべてのプログラム]→[管理ツール] をポ イントし、[ネットワークモニタ]をクリックすることにより、起動することができます。 操作の説明については、オンラインヘルプを参照してください。

回復コンソールの設定



回復コンソールは、何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合に、システムの修復 を行う際に使用します。

回復コンソールを使用する場合は注意事項があります。 ユーザーズガイド(セットアップ編)「6 故障かな?と思ったときは」ー「システムの修復」ー 「Windows Server 2003 回復コンソールを使用する際の注意点」(6-2ページ)を参照し、設 定を行ってください。

MTBFタイプの設定

CPU/PCIモジュールで障害が発生した際の動作を設定することができます。

Express5800/ftサーバではハードウェアコンポーネントのMTBF(平均故障時間)を管理します。CPU/PCIモジュールで障害が発生した際にMTBFを再度計算し、あらかじめ決められたしきい値を下回った場合は該当するモジュールの使用を中止(disable)します。 各モジュールでMTBFタイプを設定することで、障害が発生した際にしきい値を計算せずに使用を再開したり、中止することができます。

MTBFタイプの説明

「MTBFしきい値有効」【規定値】	障害が発生した場合、MTBFを計算し、しきい値
	を下回ったときモジュールを停止する。
「MTBFしきい値無効(常に停止)」	障害が発生した場合、MTBFに関わらずモジュー
	ルを停止する。
「MTBFしきい値無効(常に再起動)」	障害が発生した場合、MTBFに関わらずモジュー
	ルを再起動する。

初期設定は「MTBFしきい値有効」となっています。

- MTBFがしきい値を下回り、使用が中止されたコンポーネントであっても、MTBFをク 「「「」」 リアすれば強制的に使用を再開(enable)させることができます。ただし、強制的に使 用する際は保守員に相談してください。
 - MTBFタイプを「MTBFしきい値無効(常に再起動)」に設定した場合、モジュールが故障 した時にいつまでも再起動を繰り返す可能性があります。MTBFタイプは、繰り返し再 起動に失敗した場合は自動で停止させる「MTBFしきい値有効」を推奨します。
 - モジュールの交換を行った場合、MTBFタイプは規定値「MTBFしきい値有効」に変更されます。

MTBFタイプの設定手順

1. [スタート]-[すべてのプログラム]-[ESMPRO ServerAgent]-[ftサーバユーティリティ]をク リックする。

[ftサーバユーティリティ]が表示されます。

2. 左ペインの[ftサーバ]ツリーで[CPU/PCI モジュール]から、MTBFタイプを変更し たいモジュールを選択し、右ペインの [MTBFタイプ]からMTBFタイプを選択 して[適用]をクリックする。

選択したモジュールのMTBFタイプが変 更されます。

|┳−0重要

MTBFタイプは各モジュール単位で設 定できます。両方のPCIモジュールを 変更させる場合は、各モジュールに対 し上記の処理を行ってください。

● 第 248 ● 第 248 ● 第 249 ● ● 第 249 ● ● 第 249 ● ●	PCモジュール(ID:10) - ftサーハ'ユー ファイル(E) 表示(U) ウインドウ(U) ヘルフ	549754 1950	_ 🗆 🗙
	▼ 19 - 11' ● ■ 0 + 24')
144. 1	144	55%(68) - 55%(68) - PCモジュールの35%(528)175 3 - 計算(Q). 計算 改合い	